

国語 第1学年 ふたとぶた

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を私の学級に合わせて直してください。初めに、学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や配慮、使える時間と本時の位置、ICTと紙の道具の条件を一項目ずつ質問し、答えを待ってから次の質問へ進んでください。条件がそろったら、濁音による音と意味の違いという目標を保ち、清音と濁音の対応カードで学びを確認できるように全体を直してください。教科書の本文や台詞、挿絵、固有の問題は転載しないでください。配当時数は出典に従い、活動の配分を提案する場合は提案と明示してください。児童の姿を実測済みの事実として創作しないでください。三重の指導案の見出しの順と評価の三観点を保ち、内部IDなどを先生向けの文章へ出さないでください。変更箇所と根拠を示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「ふたとぶた」 教材名「ふたとぶた」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、音と文字の関係や発音を確かめ、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話す。本時に扱う仮名や助詞の表記を確かめ、語や文の中で使う。思考・判断・表現では、清音と濁音の言葉を声に出して比べ、絵に合う表記を選んで書く。交流や試行の前後を比べ、清音と濁音の対応カードを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①音と文字の関係や発音を確かめ、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話している。本時に扱う仮名や助詞の表記を確かめ、語や文の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)イ・〔知識及び技能〕(1)ウ

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、学習カードの語句や説明を読み直し、表記や言い方を確かめて直している。(B(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

この単元では、濁音による音と意味の違いを中心に学ぶ。清音と濁音の言葉を声に出して比べ、絵に合う表記を選んで書く活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(1)イ・〔知識及び技能〕(1)ウとB(1)エに関係する学習である。公式単元一覧では知識事項が中心であるが、本案では言葉を使って見直す活動に関わるB(1)エを関連事項として加えた。成果は、清音と濁音の対応カードに示した判断と理由から捉える。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

予想される難しさは、濁点を飾りと考えて落とすことである。対応する絵と言葉を並べ、声と表記を結び付ける。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時（本時）：○清音と濁音の言葉を声に出して比べ、絵に合う表記を選んで書く。○点が付くと音と意味はどう変わるかを考え、最初の答えとその理由を残す。 評価：知①・思①（発言・学習記録）

第2次 第2時：○友達の説明と比べ、清音と濁音の対応カードを見直す。○別の語句や場面でも今回の考え方を使い、直した理由を伝える。 評価：思①・態①（見直しの記録）

6 本時の指導（1/2）

(1) 本時の目標

清音と濁音の言葉を声に出して比べ、絵に合う表記を選んで書くとともに、カードに書いた語句や説明を読み直して修正できる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 身近な経験と既習の言葉を確認、今日使う教材や資料を準備する。

○「点が付くと音と意味はどう変わるか」

【めあて】濁音による音と意味の違いについて、自分の考えと理由を表そう。

予想される児童の反応：・点のあるなしで違う物の名前になる。

・どこを確認めれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。

指導上の留意点：本時に使う具体例が見える所へ置く。濁点を飾りと考えて落とす姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。

【展開】

学習活動：2 清音と濁音の言葉を声に出して比べ、絵に合う表記を選んで書く。

3 書いたものを読み返し、「点が付くと音と意味はどう変わるか」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確認する。

4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。

○学習した語や説明をカードに書き、見本や資料と照らして表記・言い方を見直す。

予想される児童の反応：・点のあるなしで違う物の名前になる。

・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。

指導上の留意点：対応する絵と言葉を並べ、声と表記を結び付ける。知識・技能では、音と文字の関係や発音を確認、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話している。本時に扱う仮名や助詞の表記を確認、語や文の中で使っている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。

評価：①学習カードの語句や説明を読み直し、表記や言い方を確認して直している。(B(1)エ)(学習カードの修正前後)

【まとめ】

学習活動：5 清音と濁音の対応カードを確認、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。

【まとめ】文字は、形や使い方を見本と比べ、どの部分を確認するかを決めて練習する。

6 最初から変えた点、理由を確認して残した点を振り返る。

予想される児童の反応：・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。

指導上の留意点：結論が教師の例と同じかだけで判定しない。点が付くと音と意味はどう変わるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。

評価：知①(清音と濁音の対応カードと実際の言葉の使用)・態①(単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、清音と濁音の言葉を声に出して比べ、絵に合う表記を選んで書いている姿である。初稿・見直した稿・修正理由を基に判断する。濁点を飾りと考えて落とす場合は、対応する絵と言葉を並べ、声と表記を結び付ける。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。関連する書くことの評価では、学習カードを読み直して訂正した箇所と、その理由を確認する。

(4) 板書計画(縦書き・右から左へ)

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には濁音による音と意味の違いを確認する語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に清音と濁音の対応カードで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後に使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

